

B.A (Honours) Examination, 2019
Semester-VI
Japanese
Paper – JP-14 (H-14)
(Introduction to Japanese Literature)

Time- Three Hours

Full Marks- 40

Questions are of value as indicated in the margin.

問題 I 以下の古文を現代語にきなさい。

5 x 2 = 10

ア) 今よりは
秋風寒く
吹きなむを
いかにか独り
長き夜を宿む

イ) 夢にだに
見えばこそあらめ
かくばかり
見えずしあるは
恋ひて死ねとか

問題 II 下記の古文を読んで自分の言葉で説明きなさい。

8 x 2 = 16

ア) 今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。翁言ふやう、

「我、朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。子となり給ふべき人なめり。」

とて、手にうち入れて家へ持ちて来ぬ。妻の軀に預けて養はす。うつくしきことかぎりなし。いと幼ければ籠に入れて養ふ。竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけてのちに竹取るに、節を隔てて、よごとに金ある竹を見つくること重なりぬ。かくて翁やうやう豊かになりゆく。

イ) さしたる事なくて人のがり行くは、よからぬ事なり。用ありて行きたりとも、その事果てなば、とく帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。

人のむかひたれば、詞多く、身も草臥れ、心も閑ならず、万の事障りて時を移す、互ひのため益なし。いとはしげに言はんもわろし。心づきなき事あらん折は、なかなかそのよしをも言ひてん。同じ心にむかはまほしく思はん人の、つれづれにて、

P.T.O

「いましばし、今日は心閑に」など言はんは、この限りにはあらざるべし。阮籍が青き眼、誰もあるべきことなり。

そのこととなきに人の来りて、のどかに物語りして帰りぬる、いとよし。又、文も、「久しく聞えさせねば」などばかり言ひおこせたる、いとうれし。

問題 III 下記の詩を現代語に書き直し、その意味も説明しなさい。 **4 x 1 = 4**

ア) 秋の田の穂の上に霧らふ朝霞
何処辺の方にわが恋ひ止まむ

問題 IV 次の質問に答えなさい。 **1 x 10 = 10**

- ア. 最初の歌物語がどれですか。
- イ. 古事記はいつ書かれたのですか。
- ウ. 源氏物語の作者はだれですか。
- エ. 現在する日本の最古の和歌集がどれですか。
- オ. 上代文学はいつからいつまで書かれたのですか。
- カ. 源氏物語の主人公はだれですか。
- キ. 蜻蛉日記の作者はだれですか。
- ク. 古事記はだれによって編集されたのですか。
- ケ. 源氏物語は全部でいくつの巻きになっていますか。
- コ. 土佐日記の作者はだれですか。
